



社会福祉  
法人 豊中市社会福祉協議会

# ボランティアセンターだより

2001年(平成13年)11月20日

第34号

発行 社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより編集委員会

〒561-0881 豊中市中桜塚 2-28-7 ㉞ (6848) 1000

URL: <http://www3.ocn.ne.jp/~tcpvc>

E-mail: [tcpvc@gold.ocn.ne.jp](mailto:tcpvc@gold.ocn.ne.jp)

## ボランティアグループあれこれ

# ステッキ 編



街中で、こんなふうにもメガネや重りをつけてインスタントシニア(高齢者擬似)体験を行っている子ども達を見たことはありませんか?

この体験学習の指導をしているのが、市社協登録ボランティアグループ「ステッキ」の皆さんなのです。

2001年毎日介護賞・社会部長賞に笑顔

### 「これからもマイペース」

—豊中「ステッキ」の土屋代表—



「2001年毎日介護賞」に笑顔  
「ステッキ」は2001年に  
「これからもマイペース」  
と題して、11月19日朝刊  
に掲載されました。

「2001年毎日介護賞」の社会部長賞を受ける「ステッキ」の土屋代表

毎日新聞に掲載されました(10月19日朝刊)

「2001年毎日介護賞 社会部長賞」(毎日新聞社主催)の受賞が決まり10月18日授賞式が行われました。クリスタルの盾と励ましの言葉を社会部長さんからいただきました。

「豊中市老人介護者(家族)の会」での託老から始まったステッキの活動は、大阪府下でもめずらしい個別訪問へと広がり、またインスタントシニア(高齢者擬似)体験講座で、幅広い人々と輪を広げています。こうした地道で幅広い活動が評価されました。これが縁で、大阪ガス(株)よりシニア装具の助成をいただくことになり、11月12日大阪ガスいきいき市民推進室長の春井様より目録が手渡されました。思いの輪がつながり、大きな輪の広がりをみせています。

土屋リーダーは「本当にありがたいことです。これを励みにマイペースで頑張りたいと思います」と話していました。10年目を迎える今、これをひとつの区切りとして気持ちを引き締め、足元を見直しより良い活動を息長く続けたいと思います。

(ステッキ K.S.)



大阪ガスいきいき市民推進室長の春井様より目録をいただきました

# ボランティアはいま

## 子育て・家事援助ボランティアグループ 「そよかぜ」

## 年賀状ボランティア

友人が脳内出血で倒れました。幸い、4世代が同居している家族でしたので、今は病院でリハビリに励んでいます。最近、豊中の私のまわりでは核家族が大多数です。「平安な時は良いのですが、何かあったらどうしよう」という不安をお持ちの方は、たくさんおられると思います。

お父さんから「生まれてきたばかりの双子が実家から帰ってくるので『そよかぜ』に沐浴のお手伝いをお願いします」という依頼がありました。お父さんに「キッチンの流しで使える沐浴槽だけは用意してください」とお願いしました。後日、お母さんから「あの沐浴槽で、なんとか自分達で頑張ってみます」という電話が市社協へあったそうです。『そよかぜ』としては、ちっちゃな双子ちゃんにお会いできなくて、少々残念、というところでした。

困った時、できるだけ頑張ってもらい、できなくなった時『そよかぜ』として少しでもお手伝いができたらよいのになあと思います。

(そよかぜN.I.)

今年も残り少なくなったところで、恒例の年賀状ボランティアが催されました。市内にお一人でお住まいになっている高齢者の方々に年賀状をお届けしようと毎年この時期に開かれます。難しいこともなく、個々の都合の良い日時を選べることから毎年参加される方も多く、また年々若い人たちの参加も増えてきています。今回も11月9日に初日を迎え、和やかな雰囲気の中全4回を通じ述べ約120名のボランティアによって、いろいろな手法による心のこもった約4,400枚の年賀状が作られました。

(アキラフ エド)



# 10月4日 アクア文化ホールにて開催 地域福祉を考える市民の集い

昨年の社会福祉法の改正で、平成15年に各自治体が地域福祉計画を策定することになっています。それに先駆け、豊中市は市社協と共催で市民向けの学習会「あすの地域福祉を考える集い」を開催しました。講師は、関西学院大学教授の牧里每治氏で地域福祉の考え方や地域福祉計画と他の行政計画などの関係について海外の事例なども踏まえてお話いただきました。地域福祉計画は、行政の計画であるとともにわたしたち地域住民やボランティアの夢を描く計画となります。今後の動向が注目されます。

理想の地域福祉像は … (講演会の参加者アンケートより)

子育て中の母親が社会と関わりがもてるまち

バリアフリーの町

校区の会館で相談のできる人と場所がほしい

ひとり暮らし高齢者の孤独死がない

必要なとき必要な情報が得られるまち

# 親子ボランティア講座～親子で探検隊～

去る7月23日、小学校1年生から4年生の子どもとその保護者を対象に「親子ボランティア講座」を開催しました。この講座は夏休み期間中に親子で共通の体験することで新たな気づきや発見をしていただくということを目的に今年初めて行われました。ここでは参加者の感想をご紹介します。

## 車椅子



車椅子を押すのも、さわるのも、初めての体験でしたが、子どもにとっても実際にのせていただいて色々考えることもあったと思います。福祉の店「なかま」の存在も知らなかったのですが、今回知ることができ、よかったです。(保護者)

## 点字・アイマスク



妹は目が見えないのですが、アイマスクをつけた体験をしたことで今日参加した姉も実感としてわかったことが多かったと思う。(妹がいつも感じている世界がどんなものか少し理解できたのではないか)いかに状況を説明してあげる言葉掛けが必要か親として改めてよくわかった。(保護者)

## 手話

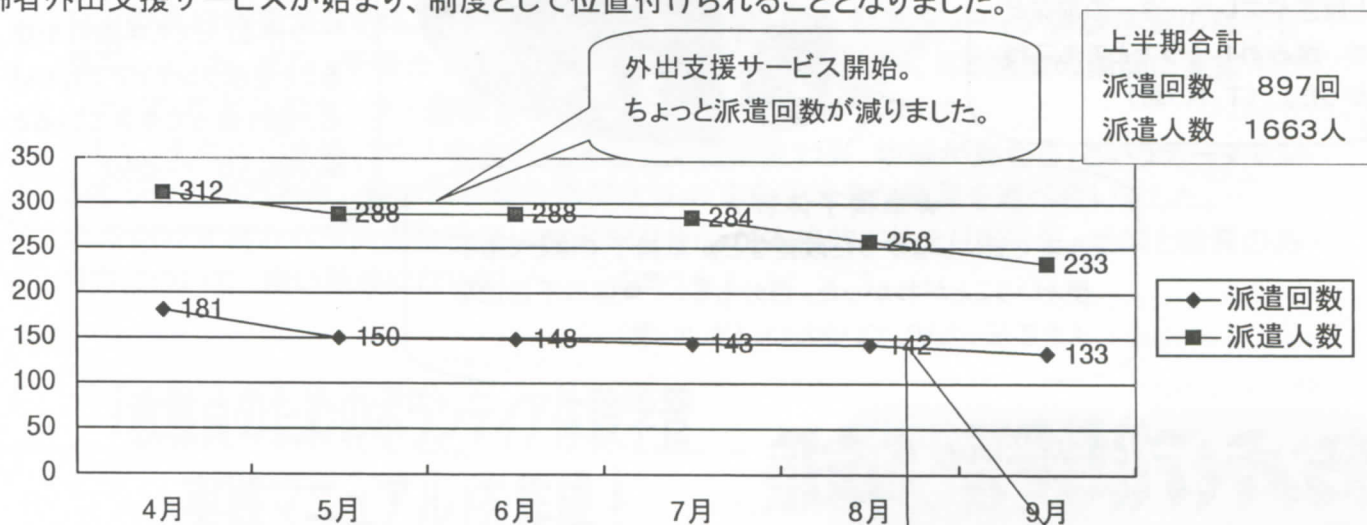
教え方がわかりやすく、勉強になりましたが、1組しかいなかったのでもさみしかったです。(保護者)

### お知らせ

来年2月17日(日)の豊中ボランティアフェスティバルでは「ファミリーボランティア体験コーナー」を実施します。ご家族皆様さんでお越しください!

## 平成13年度ボランティアセンター上半期活動報告

平成12年度には年間1438回、延べ3550人のボランティアのみなさんが活動されました。今年度に入り、今までユウあい号の運転で豊中アッシーの皆さんが担っていた高齢者の通院の支援が、市の高齢者外出支援サービスが始まり、制度として位置付けられることとなりました。



外出支援サービス開始。  
ちょっと派遣回数が減りました。

5, 6, 7月は学校、企業やボランティアスクールでの体験学習が目白押しでした!

暑い時期はちょっと休憩。  
でも青少年グループつぼみではプールの介助など夏ならではの活動に元気に協力しました。



# 「総合的な学習の時間」 ～ 学校が変わる

10月25日(木)に、大阪府社会福祉協議会と豊中市社会福祉協議会の共催で  
応え、北海道、山形県、東京都、大阪府、高知県、沖縄県の6都道府県の社会福

### ★点字体験★

点字などで、ここに何があるかなど教えてくれる重要な役目をしていることがわかった。体験してより社会に関心をもった。(H. H. 君)



### ★インスタントシニア体験★

少しの段差がきつく感じ、電車の中では少しの揺れでもフラフラしたりこんなに大変だとは思わなかった。(Y. T. 君)

## 第11中学校1年生



## ボランティア体験学習の感想

### ★アイマスク体験★

アイマスクをつけて歩いてみると段差やエレベーターの前などで、踏み外しそうでもとてもこわかった。(T. K. 君)



### ★車椅子体験★

今まで気にしなかった段差などが車椅子ではとても不便ということがわかった。自分ももっと身体の不自由な人を手伝ったりしていきたい。(Y. Y. 君)

### ★手作り介護用品作り★

各人の体型に合わせて一つ一つ作る。とても手間のかかることをボランティアでしている。助け合って生きていると思った。(S. Y. さん)



## ボランティア体験学習への支援

豊中市社会福祉協議会では、昭和59年度より「ボランティア協力校事業」を実施し、学校でのボランティア体験学習への支援を行っています。今年は、40校を指定。ボランティアや校区福祉委員会の協力を得ながら活発な活動を各学校で展開していただいています。

また、6月には「教職員のためのボランティア体験学習研修会」を開催。約30名の先生が参加され、ボランティア体験学習を行うにあたってのポイントについて学んだあと、実際に車椅子やアイマスク、インスタントシニア、点字、手話などを体験しました。

# 指導者養成セミナー

## 地域が変わる ～



開催されました。今回のセミナーは、東京ボランティア・市民活動センターの呼びかけに社協議会がそれぞれの特徴を生かし、実施するものです。



### 第2部 シンポジウムでの熱心な意見交換

右から【コーディネーター】豊中市社協主任 勝部麗子氏  
【シンポジスト】

- ・少年文化館指導主事 島野孝夫氏
- ・豊中市立第十三中学校教諭 宮地和夫氏
- ・原田校区福祉委員会 戸谷文代氏
- ・手話サークルあさなぎ 永田由子氏

【コメンテーター】

東京ボランティア・市民活動情報センター 安藤雄太氏

中学校生徒の難しい年齢のなかで、自発的に活動を引き出す難しさを考えさせられた。

### 参加者の感想



学校に対しての対話を増やし、我々の学校に対してできる協力点を煮詰めてできる限りの努力を行いたい。

上記のセミナーが福祉会館で開催されました。午前中の第1部には大阪府内の市町村社協での実践報告がなされ、豊中市立第十一中学校1年生のボランティア体験学習の様子を見学しました。また、午後の第2部には約70人の人達が集まり、ミニ講演の講師に東京ボランティア・市民活動センター副所長の安藤雄太さんをお願いしました。

また、それに引き続いて、「総合的な学習で学校が変わる 地域が変わる」というテーマでシンポジウムが行われ、豊中市社協の勝部主任の司会で活発な意見を述べ合いました。

2002年度から市内の生徒達に総合的な学習が本格的に始まりますが、地域と教育のあり方について、良い勉強になりました。(アクセス M.Y.)

## 「教職員のためのボランティア体験学習実践マニュアル」を作成!

ボランティアセンターでは、センターでの支援内容や体験学習を行うにあたっての活動事例やモデルプランなどを掲載したリーフレットを作成しました。有意義で充実したボランティア体験学習に役立てていただけたらと思います。



# サンディボランティアスクール

7月15日(日)福祉会館で今年も恒例の社会人のためのサンディボランティアスクールを開催しました。企業人・教員・公務員等さまざまな立場で40名が「ボランティア」について学びました。講師は大阪ボランティア協会事務局次長の名賀亨さんでレクリエーションを交えた楽しい講座でした。その後、ボランティア体験の説明会を終え、車イス・アイマスク体験などを経て夏の休暇や休日を使ったボランティア体験が行われました。特に、今年は会社ぐるみでの参加や教員の参加なども多く、ボランティアの広がりを感じた取り組みでした。

ボランティアってなあに

体験！体験！

いざ施設へ…



名賀さんの話で学ぶ



～ 参加者の声より抜粋 ～

- ・今まで、自分の人生で出会うことのなかった人達と少しでもふれあう中で自分の社会に対する考え方にプラス面が追加されたと思います。(Uさん 会社員)
- ・保育園・精神障害者・知的障害者などとの交流を通じて、普段体験できない心の交流、人と人とのつながりを感じ取る事ができました。(Mさん 会社員)

## ～ボランティアスクール入門講座～

6月22日から平成13年度ボランティアスクール入門講座を開催しました。この講座はボランティア活動に興味がある方を対象に4回講座で実施。今回は企画の段階からボランティアが参加し、ともに体験し交流する講座となりました。

今回は「ボランティアをいろいろ体験しよう」というテーマで、市社協登録ボランティアグループの皆さんの協力で車椅子・アイマスク体験といった擬似体験のほかに、リフト付自動車の試乗体験や歌体操体験、小さな手の介護用品の紹介など、各グループの活動があちこちで紹介されました。



みんなで歌体操体験！

参加者からは「ボランティア活動は地味な活動ですので長く続けられるよう自分に適したものを選んで始めるとよいのでは…そして楽しんですることによってきっと自分の人生にもプラスになると信じます。」といった感想が寄せられました。この講座をきっかけにたくさんの方がボランティア活動に参加していただければ…と思います。

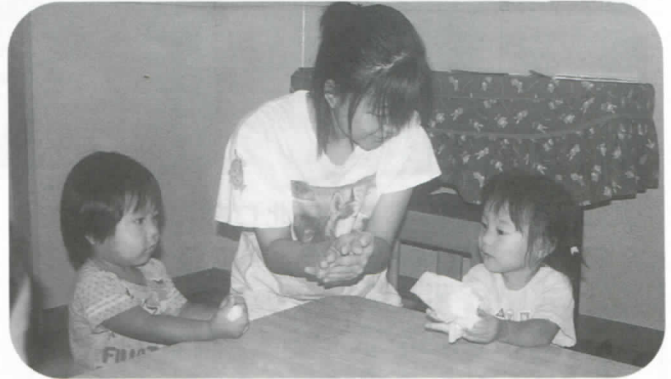


講師のボランティアのみなさん自己紹介中

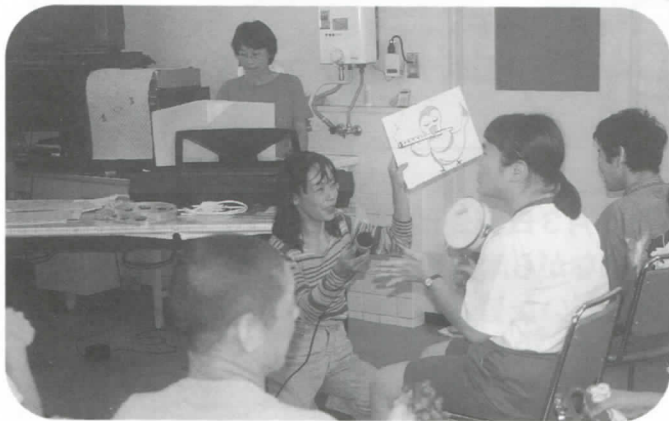
# ボランティア体験プログラム

「この夏、心の世界を広げよう!」をテーマに、大阪府ボランティア・市民活動センターと大阪府内の市町村社会福祉協議会との共催により7月～8月にかけて実施されました。活動先は大阪府内の福祉施設や地域のボランティアグループなど全340プログラム。豊中市内では福祉施設や保育園など38施設にご協力いただき、約140名の方が参加されました。参加された方の感想(抜粋)をご紹介します。

最初の日はずごく緊張していました。でも、本当に少しずつだけど、先生方のしているのを見て、それなりにやっているうちに慣れてきてだんだんと楽しくなってきました。子供達の前では自然と笑顔になってしまっていたので、自分自身もすごく幸せな気分だったし、明るい気持ちになりました。(安倍 吉美さん)



音楽セッションという形で参加させていただきました。始めは皆さん少し緊張の面持ちでしたが、人気のある歌を歌ううちにリラックスしてもらえたようで、小物楽器を使った簡単な音楽遊び、リズムののって楽器を鳴らしながら歌う等楽しんでいただけそうです。快く受け入れて下さって、こちらが「元気とさわやかさ」をもらった感じです。(重山 直子さん)



## ～ボランティア受け入れ施設連絡会議を開催～

7月12日、「ボランティア受け入れ施設連絡会議」を開催しました。この会議は、「ボランティア体験プログラム」でボランティアを受け入れる高齢者関連施設や障害者福祉作業所、保育園、校区福祉委員会主催のミニディサービスなど(38施設)の担当者にお集まりいただき、ボランティアの受け入れ状況や課題について話し合いました。担当者からは、「ボランティアを受け入れることで施設の風通しをよくしたい」「活動してよかったと思ってほしい」などボランティアに期待する意見がだされる一方で、「連絡なく休む人がいて困る」「言葉づかいに注意してほしい」といった活動を行う上で気をつけてほしいことに

についての意見もいただきました。

最後に、今回の会議で話し合われた内容を基に、今後も各施設で積極的にボランティアを受け入れることを確認し閉会しました。



## 「駅前ボランティア相談」 オープン!



阪急宝塚線「豊中駅」北口前に、平成13年8月に「駅前ボランティア相談」がオープンしました。ボランティアの先輩たちがいろいろご相談に応じています。お気軽にお立ちより下さい。ご相談やダベリも、お待ちしております。

日時：第1～4木曜日  
(祝日・年末年始を除く)  
午後3時～5時  
場所：阪急宝塚線 豊中駅  
北改札口前  
福祉の店「なかま」内

\*福祉の店「なかま」内で行っていますので、お店と一緒によろしくお願いします。(アクセス M.Y.)



豊中市立第十五中学校  
「厚生労働大臣表彰」を受賞

同校は平成2年より校区内の関係諸団体との連携を深めながらボランティア活動を継続的に展開し、福祉の町作りに大きな役割を果たしている点が評価されました。

## 編集後記

前月号より前半期、季節も確実に春・夏・秋と通りすぎます。記事も事後報告の感がありますが、タイムリーな面もと焦ります。今回はヒューマンカーニバルもと張り切っていましたが、当日は生憎の雨で中止になりました。紙面はさまざまな講座や研修会・セミナーと盛りだくさんです。夏休みには初めての「親子ボランティア講座 親子で探検隊」(小学校1～4年生対象)は好評でした。ボランティア仲間は大変な財産です。活動を通じて絆を深めましょう。世の中には信じられない出来事が多発した上半期でしたネ…。 (豊中アッシー T.I.)

## 今後の予定

★ボランティアを始めたい人のための  
ボランティアセミナー

1月: 運転ボランティアグループ  
「豊中アッシー」

2月: パソコンボランティアグループ  
「アクセス」

3月: 青少年ボランティアグループ  
「つぼみ」

★1月20日: 災害支援訓練

★1月28日: ボランティア新年の集い

★2月17日:  
第9回ボランティアフェスティバル

11月3日実施予定のヒューマンカーニバルは残念ながら雨天のため中止となりました。ご準備いただいた皆さん、楽しみにして下さった皆さん誠に申し訳ありませんでした。

★使用済みプリペイドカード集めてます!!

「もういらないから…」と捨ててしまおうと思っている使い終わったテレホンカードや交通機関のカードを、福祉のために役立ててみませんか。市社協では使用済みプリペイドカードを集めています。このカードは換金して市社協の事業費として活用させていただきます。

対象となるのは

テレホンカード、ラガールカードなど

【お問合せ】

豊中市社会福祉協議会 TEL. 6841-9393

